

平成 22 年度 第 2 回 海岸工学委員会幹事会 議事録 (案)

開催日時：平成 22 年 9 月 29 日 (水) 14:00～16:30

開催場所：土木学会 2 階, AB 会議室

出席者：灘岡委員長, 後藤幹事長, 青木, 岡安, 小笠原, 川崎, 榊山, 重松, 柴山, 鈴木 (佐々木委員の代理), 諏訪, 富田, 中川 (栗山委員の代理), 日向, 水谷, 陸田 (黒岩委員の代理), 森屋, 山本, 由比, 渡部, 岩西 (事務局) (敬称略)

1. 報告事項 (後藤幹事長)

- ・日本海洋工学会理事・運営委員を大山委員から森屋委員への交代の報告がなされた.
- ・出版企画の募集について, 各小委員には事務局より募集メールを発信済み.
- ・H21 活動度評価について, I (活動の規模): A, II (予算): A, III (今後の活動): A 総合 A の評価を受けたことが報告された.

2. 土木学会論文集の再編について (青木小委員長)

次の通り報告がなされた.

- ・過渡期 (2009, 2010) について, 通常号なし, 特集号のみとなる.
- ・統合以降 (2011 以降) について, 季刊化となる.
- ・通常号の編成体制は, 現在の B 部門の編成委員会の体制を維持し, 特集号の編成体制は, 各委員会が責任を持つこととなる.
- ・通常号と特集号の統一 (特にページ数の振り方) について, 通常号と特集号を通し番号とすることを再編委員会で決定された.

3. 海岸工学論文集第 57 巻 発刊準備状況について (青木小委員長, 渡部副小委員長)

次の通り報告がなされた.

- ・第 2 段階審査以降の通過論文数は, 291 編となった (不採択 1 編, 辞退 1 編).
- ・取り下げ (本原稿の執筆辞退) 論文 5 件の内 2 件は, 第 2 段階審査後に辞退となった.
理由: 本原稿が間に合わない (辞退理由書の提出要求を無視)
著者削除の申し出を不受理としたところ辞退
- ・国際セッション Proc. の名称・発行者名称等が決定し, 和文論文集とは別冊 (B5 版) として編集され, 和文論文集と同封して送付される.
- ・著者負担金は 35,000 円及び論文集は 5,000 円となる.
- ・J-Stage 関連作業状況について, 原稿のカラー化による PDF の校正のため, CD へのコピー等による校正作業の遅延が生じた. これにより, 講演会までに全論文を公開することが本年度は難しい可能性がある.
- ・来年度の編集・出版形態についての説明があり, 本年度の編集・出版形態を踏襲する

こととなった。

○論文集編集の検討課題について

・フォーマットの変更

- 1) 土木学会論文集の電子組み版システムを早めに導入することを検討するため、情報を収集する。
- 2) 第2段階審査に関する不採択の基準(ガイドライン)を次年度に向けて整理する。

・組版維持の是非(継続審議)

- 1) 組版+電子出版+印刷製本・販売の場合(経費:350万円,収入200万円)
- 2) 組版+電子出版の場合(体裁は良いが,組版経費の回収が困難となる)
- 3) 著者作成pdf+電子出版の場合(安価であるが,体裁の統一に問題)

・土木学会論文集 B-2(通常号)への投稿促進(継続審議)

企画構想WGによると,水工学論文集は減少しておらず,海洋開発論文集も大きな変化はないことから,海岸工学分野全体の底上げが必要であるとの意見が出た。

・国際セッションの活発化(継続審議)

投稿数を増やすために論文投稿・審査のスケジュールを見直すこととなった。

国際セッションをパラレル5セッション内に組み込むなど,参加し易い環境の提供が必要との意見が出た。

・論文の引用

論文集が土木学会論文集の特集号となることから,引用の際の論文名表記の統一が必要であるとの意見が出た。投稿要綱に引用表記の仕方を示すこととなった。

4. 海岸工学論文賞候補論文について(後藤幹事長)

- ・候補論文の抽出結果より,12編の候補の中から5名の審査員による最終審査の結果3編(波:1編,構造物:2編)の候補が決定したことが報告された。次回の委員会にて,論文タイトル及び著者が公表される。
- ・「最終審査の審査員に気づいた点についてコメントを頂いてはどうか?」、「最終原稿(第2段階審査の修正意見を反映後)で審査してはどうか?」、「最終審査に載らない論文にも優秀なものがあるので,そのような論文を拾い上げることはできないか?」などの意見が出た。

5. 第57回海岸工学講演会の準備状況について(重松委員(森委員の代理))

- ・懇親会費(例年7,000円)が8,000円になることが報告され,了承された。
- ・見学会について近日中にアナウンスを行う予定である(申込期限:2010.11.1)。
- ・前日シンポジウムは「津波避難の現状と今後の避難技術・防災体制について」と題して,津波避難支援技術WG(岡安WG主査)で対応することが報告された。会場の対応が可能ならば,18:00開始を17:30に早めたいとの要望が出た。実行委員会で会場

の対応ができるのかについて検討することとなった。

6. 第 58 回及び第 59 回海岸工学講演会の開催（会場など）について（小笠原委員・陸田委員）
 - ・第 58 回海岸工学講演会は、岩手県盛岡市・アイーナにて、H23.11.9（水）～11.11（金）の日程で行われることが報告された。見学会について、具体的な行程案を次回の委員会で示し、その内容について議論することとなった。
 - ・第 59 回海岸工学講演会は、広島県広島市・国際会議場にて、H24.11.14（水）～11.16（金）の日程で調整していることが報告され、日程の重なる国際会議等がないかを各幹事にて確認をお願いしたいとの要請があった。

7. Coastal Engineering Journal について（水谷小委員長）

次の通り報告がなされた。

 - ・CEJ の投稿状況が報告された（Volume 52・No. 2：3 編，No. 3：2 編確定）。
 - ・World Scientific 社に冊子体のみの販売部数を問い合わせ中（返事待ち）である。
 - ・Impact Factor が 0.692（2008 年）から 1.026（2009 年）に上昇した。

8. 各小委員会等の活動について（各小委員会の委員長）
 - ・広報小委員会（渡部委員）より、資料に基づき説明がなされた。土木学会図書館及び J-Stage による海岸工学論文集の公開について、J-Stage に一本化することに決定した。これに伴い、本年度（第 57 巻）は「直ぐに公開」、次年度（第 58 巻，土木学会論文集の J-Stage 化が完了）以降は土木学会の上位規定に従い、「1 年間は会員に公開，1 年後に一般に公開」となる。なお，次年度以降，土木学会論文集購読者以外の講演会参加者に対しては，論文集冊子体にて論文閲覧の機会を提供することとする。
 - ・地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会より，資料に基づき説明がなされた。4 つの WG（被害事例 WG，模型実験 WG，推定手法 WG，対策手法 WG）を設置し，各 WG の活動計画が報告された（富田副委員長）。
 - ・数値波動水槽研究小委員会より，資料に基づき説明がなされた。第 1 期（H19.7～）のまとめとして，現在，原稿の整理中である。第 2 期（H21.7～）では，種々の数値波動水槽モデル（手法）の比較のための計算条件を検討中である（岡安小委員長）。
 - ・企画構想 WG より，資料に基づき説明がなされた。海岸工学講演会参加者・論文集投稿者のニーズを拾い上げるためアンケートを実施した。152 名から回答を得ることができ，その集計結果の一例が示された（後藤幹事長（森 WG 主査の代理））。

9. 第 46 回（2010）及び第 47 回（2011）水工学に関する夏期研修会（B コース）について（重松小委員長・陸田委員）

- ・第 46 回水工学（神戸）が無事終了したことの報告がなされた。B コースの参加者は 76 名であった（A コース：109 名）。アンケートを行った結果、講演で用いた PPT の配布を希望する声が多かった。
- ・第 47 回水工学（広島）では、海洋環境（閉鎖性水域，エスチュアリー，地下水環境，リモセンなど）をテーマとした講演内容にすることが報告された。

10. その他

- ・ Coastal Structures 2011（Yokohama, 2011 年 9 月 5-9 日）の案内があった。
- ・ APAC 2011(Hong Kong, 2011 年 12 月 14-16 日)の案内があった。
- ・ 次回の委員会 11/10 18:00～（京都）
- ・ 幹事会 4 月，委員会 6 月（次年度予定は 3 月初旬を目処に決定）

議事録担当：小笠原